



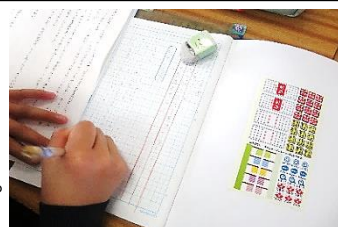
隈府小だより

学校教育目標「自ら考え なかまと高め合う 隈府小
～ 明日が楽しみな学校をめざして ～」

隈府小学校
学校だより No.2
文責 芹川博文
4月17日(金)

真っ新たなノートに字を書く瞬間 ～ 新たなスタート 一日一日を大切に ～

真っ新のノートに文字を書く瞬間の緊張と清々しさ。学生の頃から何十年もたっているのに蘇ってくる新鮮な空気感です。それぞれの学級、学年で本格的に始まった授業。1年生から順番に6年生まで、朝の教室の様子を見て回りました。そして、改めて小学校6年間の成長の大きさを感じました。小学1年生が中学1年生なるまでの6年間。365日×6年の2,190日。一見目には見えない一日一日の成長。だからこそ大切にしたいものです。交わすあいさつや会話も、小さな頑張りも。



自分で歩く 安全に歩く ～ 交通事故から身を守る 自立に向けた日々の学び ～



4月の登校風景。黄色い帽子をかぶった1年生が、保護者の方や、お兄さんやお姉さんと一緒に登校する姿が眩しく映ります。道路は「リアルな社会」です。車やバイク、自転車など大人も忙しく行き交う場所。だからこそ、安全に道路を歩く力、横断歩道を渡る力が必要です。その力を身につけるには、やはり経験を重ねるしかありません。どこが危険か、見えにくいのか、保護者の方や上級生と一緒に歩きながら学んでほしいと願います。事情により送迎される場合も、車の乗り降りの際の注意点など、自分で考え、判断する力をつけさせたいものです。

全学年で交通教室を実施しました。誰一人、交通事故に遭う子がいないよう、切に願います。

それぞれの「あの日」を語り継ぐ 次の世代に ～ 熊本地震から10年を迎えて ～

10年前の4月14日、帰宅途中の車の運転中、一瞬何が起きているのか理解できない揺れを感じ停車しました。余震に備え家族一緒に寝ていた16日の本震の夜は、家がつぶれると思い、寝ている子どもたちの上に覆いかぶさりました。家がきしむ音、食器の割れる音は今も耳に残っています。当時、県庁に勤務していた私は、交代で寝泊まりしながら、県内の小中学校への支援に当たりました。益城の道を通った時、その変わり果てた姿を見た衝撃は忘れられません。隈府小学校も避難所になり、救援物資や水を搬送するトラックや自衛隊の車が並び、行列ができました。

それぞれの「あの日」を、みんなで力を合わせたことを、次の世代に語り継ぎたいものです。

「しあわせ運べるように」

地震にも負けない 強い心をもって 亡くなった方々のぶんも 毎日を大切にいきてゆこう
傷ついた「くまもと」を もとの姿にもどそう 支え合う心と明日への 希望を胸に
響きわたれ ぼくたちの歌 生まれ変わる「くまもと」のまちに
届けたい わたしたちの歌 しあわせ 運べるように

※1995年、神戸市の音楽教諭だった臼井 真氏が神戸復興を願い作詞・作曲した曲。その後、「神戸」を「ふるさと」「福島」「熊本」「石川」などに置き換えられ、それぞれの復興を願い、歌い継がれています。